

第49回

全国精神保健福祉業務研修会 in 長崎

令和8年

2/7 | 土 | 8 | 日 |



ランタンの町長崎から、次世代に手渡すこころのバトン
～みんなで考える共生社会の未来～

会場 長崎県勤労福祉会館

〒850-0031 長崎県長崎市桜町9-6
TEL.095-821-1456

【懇 親 会】

2月7日(土) 18:00～ (会費:7000円)

会場: 銀鍋 長崎県長崎市銅座町7-11

【定 員】 各プログラムごとに設定 (先着順)

【対 象】 精神保健福祉業務に従事する自治体職員

【参加方法】 各プログラムごとに設定 (ハイフレックス型の場合リモート参加可能)

【参 加 費】 会員 4,000円 / 非会員 10,000円 (会場で抄録集を配布します)

【申込期間】 令和7年10月27日(月)～令和7年12月26日(金) 必着

※各プログラムは定員に達し次第、締め切ります (随時ホームページを更新予定)。

申し込み方法

「全国精神保健福祉相談員会」で検索いただくか
下記URLにアクセスまたは右記二次元コードを読み取りお申し込みください。
<https://www.zenseisou.com>



全国精神保健福祉相談員会
Japan Association of Public Mental Health & Welfare Workers

主催 | 全国精神保健福祉相談員会 | 協賛 | 大塚製薬株式会社

後援 | 厚生労働省、長崎県、長崎市、
全国精神保健福祉センター長会、全国保健師長会

研修会事務局 | 〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818-2
埼玉県立精神保健福祉センター 救急情報担当 齋藤
E-mail: kensyu@zenseisou.ciao.jp

開 会

●13:00~13:30…講堂/開会・当会の活動報告 全国精神保健福祉相談員会における近年の活動について報告いたします。

行政説明

●13:30~14:30…講堂/会場定員250人 HF可

「精神保健・福祉・医療施策の動向と行政の役割」

【講師】海老名 英治氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課長)

最近の精神保健福祉施策の動向や今後の方向性について講演いただきます。

基調講演

●14:40~17:00…講堂/会場定員250人 HF可

シンポジウム

基調講演: ●14:40~15:25

「みんなで考えよう、これからの共生社会」

【講師】大塚 俊弘氏(長崎県精神医療センター 院長)

地域で暮らす人々を支える精神保健福祉相談員の役割は、これからますます重要になります。社会の多様性が広がる中で、すべての人が共に生きるためには何が必要なのでしょう。日々の相談や支援の積み重ねは、目には見えないけれども確実に地域を支えています。小さな関わり・関わり合いの積み重ねが、その人の人生を支えることがあります。今回の基調講演では、医療政策課長、保健所長、精神保健福祉センター所長、児童相談所長なども登壇され、現任、長崎県精神医療センター大塚先生の講演から「共生社会の未来」について語り下ろし、これからの社会づくりにおける私たちの役割を考えていきます。きっと、日々の実践を続ける方々となるはずです。

シンポジウム: ●15:25~17:00

「2040年を見据えた精神保健福祉の未来」

【座長】大塚 俊弘氏(長崎県精神医療センター 院長) 【協賛者】新田 惇一氏(長崎県福祉保健部長)

【シンポジスト】野口 正行氏(岡山県精神保健福祉センター 所長)、中原 由美氏(福岡県筑紫保健福祉環境事務所 所長兼保健監)

篠崎 安志氏(横浜市青葉区役所・全国精神保健福祉相談員会長)

2040年を見据えると、急速な高齢化や地域での担い手不足、社会的孤立の深刻化など、私たちの暮らしは大きな変化を迎えます。精神保健福祉の分野も例外ではなく、多様化するニーズや地域生活を支える仕組みの見直しが必要となります。本シンポジウムでは「2040年問題」を見据え、精神保健福祉の現場でこれから直面する課題を抽出し、参加者で分かち合いながら、日々の支援に役立つヒントになればと思います。今後の計画や日々の実践を考えるきっかけづくりになれば幸いです。

講習会

●14:40~17:00…大会議室/定員40人

精神保健福祉相談員講習会 ダイジェスト版

制度改正に伴い、令和6年度から新たなカリキュラムの精神保健福祉相談員講習会がスタートしました。本プログラムでは、講習会のダイジェスト版を通して、精神保健福祉相談員の基礎を講習と講習で学びます。精神保健福祉相談の初任者の方(保健師・精神保健福祉士等)、精神保健福祉相談員講習会に興味のある方、精神保健福祉相談員講習会の実施を検討している方など、様々な方に参加いただける内容となっています。

【講師】岡田 隆志氏(福岡県立大学)

※午前と午後のプログラムを組み合わせて参加してもらいます。

分科会1

●9:30~12:00…講堂/定員250人 HF可

テーマ:「様々な「にも包括」のカたち」 ミニ講座:「にも包括のこれから」

【講師】藤井 千代氏(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 部長)

【実務報告】窪 嘉代氏(熊本県御船町役場)、廣重 次郎氏(長崎県対馬保健所)、柴原 彩子氏(長崎県市役所)、伊東 千絵子氏(奈良県精神保健福祉センター所長)

【協賛者】海老名 英治氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課長)、藤井 千代氏(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

「にも包括」の取組は「地域の実情に合わせた創意工夫」により千差万別展開しています。この分科会では、震災からの復興(まちづくり)の過程にありベッタタウンとして人口が増加しつつある御船町、既に人口減少真っ只中の対馬保健所、養育や人材育成に取り組む長崎市(中核市)と奈良県精神保健福祉センターから、ご当地システム構築のプロセスと実践上の課題について御報告をいただきます。人口減少フェーズの中、地域で仲間を増やし、創意工夫し楽しみながら進めるか。ヒント満載の分科会です。

分科会2

●9:30~12:00…大会議室B/定員130人

テーマ:「保健所・市町村及び精神保健福祉センター業務運営要領改訂のポイント」

【講師】野口 正行氏(岡山県精神保健福祉センター所長) 講演:「保健所及び市町村、精神保健福祉センターの業務運営要領改訂のポイント」

シンポジウム:「業務運営要領の活用と課題」

【シンポジスト】精神保健福祉センターから:矢野 亮一氏(長崎こども・女性・障害者支援センター)

保健所から:熊取谷 晶氏(京都府中丹東保健所)、市町村から:古松 正人氏(京都府綾部市役所)、中核市から:松岡 信一郎氏(和歌山市保健所)

令和6年4月に保健所・市町村及び精神保健福祉センターの業務運営要領が改訂され、新たな運用が始まりました。今回の改訂では、精神保健に課題を抱える人も相談支援の対象となり、市町村が主体的に支援を行うことが求められています。また、保健所や精神保健福祉センターは市町村と協働し、訪問支援やその体制整備を通じて厚層的支援を行うことが必要とされています。本分科会では、改訂の背景と趣意、具体的な改訂内容と今後の運用上の留意点について解説し、関係機関が円滑に連携しながら地域支援を推進していくためのヒントを共有します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

分科会3

●13:15~15:15…講堂/定員250人 HF可

テーマ:「その時どう動く? 自治体職員のための災害対応の基本」

【講師】中村 仁氏(長崎県精神医療センター) 講演:「災害時の保健医療福祉支援体制について~DPATの支援活動を通して~」

【実務報告】発表者:日高 梨沙氏(熊本県御船町役場)「もし自分のまちで災害が起きたら?—熊本県御船町での経験から」

災害が発生した時、私たち自治体職員は住民の命と生活を守る責任があります。精神保健福祉を担当する職員は、主に被災者や避難所でのこころのケア、避難所でのメンタルサポート、そしてDPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など多岐にわたる役割を担うことになります。しかし、「どんな体制で動くのか」「自分は何をすればいいのか」がわからず、不安を感じる職員も少なくありません。この分科会では、災害時の保健医療福祉の基本体制やDPATの役割、市町村における具体的な活動について初めてでも理解しやすい形で学びます。もしもの時に迷わず動ける第一歩を一歩考えてみませんか。

分科会4

●13:15~15:15…大会議室B/定員130人

テーマ:「精神保健福祉なんでも相談室~今さら聞けないあなたの疑問にお答えします!」

【登壇者】当会理事 【協賛者】岡本 秀行氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課)

精神保健福祉業務を行う中で、制度運用や支援の実践について「これってどう対応すれば?」「今さら聞けないけれど知りたい!」など思ったことはありませんか?本分科会では、参加者の皆さんが日々抱えている様々な疑問や不安を共有し、解決のヒントを見つかる場です。事前に寄せられた参加者からの質問をもとに、現場経験豊富な講師陣が具体的なかつ実務的にお答えするとともに、参加者同士での気づきや学びの場とします。知識の両面型や現場での課題解決の機会として、ぜひご参加ください。ご質問のある方は申し込みフォームからご記入ください。